

# 核のゴミと福井の未来を考えよう!

使用済み核燃料(高レベル放射性廃棄物)

「敷地内乾式貯蔵」問題



— 万年先、いや千年先、いや50年先の

子孫のなげきを想いつつ、冷静にそして誠実に議論しよう —

# 八方ふさがりの「核のゴミ政策」 「展望はなく場当たりの」

54年前、次のような警鐘が鳴らされていました

## 原電 疑問だらけ

読売新聞（県版）1971年6月30日

原子炉の耐用年数は平均十五年  
―二十年といわれる。耐用年数の  
過ぎた原子炉はもちろん、運転休  
止にするが、取りこわすには放射  
能が飛び散るので、そのままの状  
態にしておくというのが学界や電  
力会社の方針。なに分、世界でた  
れも知らない未知のことだらけに  
「福井県の美しい海岸線は原電の  
墓場がずらりと並ぶのでは……」  
といった不安が出るのも当然。県  
臨海開発課にも、将来の展望はな  
く場当たりので「どうにかなるだ  
ろう」とたよりない状態。

原子炉から出る廃棄物の処理も  
どうするかの見当もついていな  
い。科学技術庁は、東海村実験炉

「福井の美しい海岸線は原電の墓場がずらりと並ぶのでは…」

「原子炉から出る廃棄物の処理も、どうするかの見当もついていない」

「将来の展望はなく場当たりの」

## たまり続ける 使用済み核燃料（高レベル放射性廃棄物）

まず事実を見つめよう！

なぜ、関西電力は、使用済み核燃料を原発敷地内で「乾式貯蔵」したがつているの？



関電が「敷地内乾式貯蔵」を急ぐ理由は、使



用済み核燃料を保管する原発プールが3年後（2028年）には満杯になる。そうなると燃料交換ができず、原発の運転もできなくなるからよ。



でも、関電は、「青森県六ヶ所村の再処理工場が2026年に稼働し、

その後は使用済み核燃料を青森へ移送する」から「原発敷地内での乾式貯蔵はあくまでも一時的」と言っているわ。

県も「2026年に再処理を必ず操業させると国が言っているので、若狭からの搬出計画も滞りなく進むと思う」と他人ごとのように構えているわね。



でも、国が言うのだったら安心ね。「若狭が核のゴミの墓場になる」と大げさに騒ぐ人たちもいるけど、心配しすぎじゃないの？



ただ、若狭からの搬出計画は、あくまでも再処理工場や中間貯蔵施設の稼働を前提とした、仮定に仮定を重ねた話にすぎないのよ。

えっ、知らなかったわ。普通の企業ならとくに中止・撤退しているところよね。これまでにどれくらいのお金がつぎ込まれてきたの？



でも、国や国策企業が動かすと言っているんだから、私たち国民は信用するしかないんじゃない？ なぜ「仮定」だと言い切れるの？



なぜなら、再処理工場は、1993年に着

工し1997年に完成するはずだった。それが27回（年）も延期を繰り返して、32年経った今も完成していないのよ。



えっ、知らなかったわ。普通の企業ならとくに中止・撤退しているところよね。これまでにどれくらいのお金がつぎ込まれてきたの？



えっ、知らなかったわ。普通の企業ならとくに中止・撤退しているところよね。これまでにどれくらいのお金がつぎ込まれてきたの？

1979年の構想では、

建設費と40年間の操業費

を含む総事業費を11兆円

と見込んでいたけど、2025年に

は22兆円を超え、工場が動き出せば

コストはさらに増大する見込みよ。

これらのコストはすべて国民負担よ。



ところで、「再処

理工場」というのは、

使用済み核燃料を無害化する

工場のことなの？

かつて、みちのく銀行の頭取が

「青森県はリスクーな施設を押し付

けられた」と憤慨していたけど…。

使用済み核燃料の再処

理で、原爆材料プルトニ

ウムと高レベル放射性廃液（ガラス

固化体にする）が生み出されるのよ。

より厄介なゴミに置き変わるだけね。



## 受け入れ先のない ガラス固化体

青森県は30年前、英仏から返還のガラ

ス固化体2140本を30〜50年の暫定

保管で受け入れました。国は「青森を

最終処分地にしない」と約束しました

が、30年後の今も行き先はありません。

一時のお金目当てに北海道の寿都町

と神恵内村が深地層処分文庫調査を

受け入れましたが、北海道には核のゴ

ミを持ち込ませぬ道条例があり、道知

事は概要調査へ進むことにも反対して

います。

また、長崎県対馬市では、昨年3月、

市を二分する選挙の結果、ガラス固化

体の受け入れ（概要調査）を拒否した

市長（自民党）が三選されました。

そもそも地震大国の日本列島に安

定した地層など無いのです。

国は、使用済み核燃料  
を再処理し、まだ使え

るウランとプルトニウ

ムを取り出し、原発で繰り返し使う

「核燃料サイクル」を進めようとし

ているんだけど、このガラス固化体

の最終処分場がいまだに見つからな

いことも大きな足かせになるわ。だつ

て、仮に再処理工場をフル稼働させ

ると、行き先のないガラス固化体が、

年に約1千本も新たに生まれてして

しまうのよ。



30年前に英仏から返還さ  
れたガラス固化体を受け

入れる自治体が見つからないのに、

新たに1千本も生み出してしまっ

た。国の未来を危うくする大問題

ね。政治家はいったい何をしている

のかしら。



# 再処理工場の操業率は10%程度！

# 若狭の使用済み核燃料の県外搬出はできない！



廃止措置になった東

海村の再処理工場では、

故障続きで高レベル放

射性廃液のガラス固化がうまくできず、廃液を入れたステンレス貯槽の老朽化が進んでいるそうね…。

高レベル廃液は崩壊熱

を持ち、腐食性があるの

よ。東海村にはその「高

レベル廃液」が336mも貯蔵され

ているのよ。これは広島原爆数万発

分の放射能が含まれ、セル内に入っ

たら数十秒で死亡してしまうわ。



再処理の第一の目的は

プルトニウムを取り出

すことにあるんでしょ。

でも、平和国家をめざすべき被爆国日本が原爆材料をつくっていいのかしら？

すでに日本は、その原

爆材料プルトニウムを

44.4ト(2024年末)も保有

してしまっているのよ。

だから、国の原子力委員会は「余

剰プルトニウムを持たない」国際公

約を実現するため「プルサーマルの

着実な実施に必要な量だけ再処理が

実施されるよう認可する」方針なの

よ。「我が国におけるプルトニウム利用に関

する基本的な考え方」(2018年7月31日)



でも、4年前の自民党

総裁選で岸田さんは「核

燃料サイクル(プルトニ

ウムリサイクル)を止めると、プルトニウムが増える」「核燃サイクル

によって除去される高レベル核廃棄

物がそのままになる」「だから(再

処理も)やめられない」と演説して

いたわ。あれって、論理が逆さなの

ね。この国の政治家の頭の中はいっ

たいどうなっているのかしら。

総理候補ともあろう

人が核燃料サイクル

(プルトニウムリサイクル)の破綻

に気づいていないんだから、まさに

「亡国」の極みだよ。





ところで、再処理工場をフル操業すると、年約6・6トのプルトニウムが回収されるそうね。

でも、「余剰プルトニウムを持たない」という国際公約に制約されているため、再処理で取り出せるプルトニウム量は、プルスーマルで燃やせた分に限られるのよ。



ところが、これまでに4基の原発のプルスーマルで燃やせたプルトニウム量は15年間に5・73ト、年平均0・382トにすぎないわ。

今後、この4基で定期点検以外に長期停止せず燃やせたとしても年平均0・692トだけ。

つまり、この量は再処理工場を一年操業すると生じるプルト

ニウムの10%程度なのよ。



なるほど、つまり、たとえば再処理工場を操業できても、操業率を年10%程度に制限せざるを得ないというわけね。

操業率10%では、今後40年間（再処理工場の寿命）で、現在、六ヶ所村のプー



ルにある使用済み核燃料を再処理するのがやっとよ。つまり、若狭の原発プーにある使用済み核燃料を搬出することなんてできないのよ。



このことを県議や知事さんたちは知っているのかしら？

私たちは、県の原子

力安全対策課との交渉で、操業率10%の問題

を議論したけど、原安課の技術職員は反論すらしなかったわ。県議会への陳情書にもその問題は何度も書いているわよ。



県議会では、県議会で県は、「電気事業連合会は、2030

年までに12基の原発でプルスーマルを進める方針」だと、電力会社の仮定の方針に盲従するかのような答弁をしているわね。12基の原発でプルスーマルを進めることなんて、現状では極めて難しいのに…。



# 使用済みMOX燃料を処理する第二再処理工場は その計画地すら決まっていない！



原発でウランとプル  
トニウム混合のMO  
X燃料を燃やすプルサー

マル運転は、当初の目標は2010  
年までに全国の16〜18基で実施する  
計画だったけど、現在、4基でほそ  
ぼそと実施できているだけなのよね。

仏国のMOX燃料加

工場の品質劣化で生  
産量が激減して、MO



X燃料の製造が追いつかない事情も  
あるけど、そもそも電力会社は燃料  
コストが10倍になり、炉も不安定に  
させるプルサーマルなど本音ではや  
りたくないのよ。高浜原発でも認可  
された量を目いっぱい使っていない  
のよ。



プルサーマル運転後  
の使用済みMOX燃料  
の行き先はあるの？

**初めから行き先のない  
使用済みMOX燃料！**

発熱量の高い使用済み  
MOX燃料は、原発プー  
ルで百年近く冷やさなけ  
ればならないのよ。



使用済みMOX燃料には長寿命  
の核種が多く含まれ、これを再処理  
する施設もないから、高浜で永く貯  
蔵せざるを得なくなったわ。



1998年にプルサー  
マル運転の許可を国に申  
請する際、関電は「使用済みMO

X燃料の搬出先は、国が再処理方法  
などの方針を2010年までに決め  
る」と約束していたそうね。



その第二再処理工場  
は、いつどこにできる  
かの青写真すらいまだ  
にないのよ。使用済みMOX燃料  
を再処理する第二再処理工場の建設・  
稼働など夢のまた夢、おとぎ話にす  
ぎないわ。

高浜原発の老朽プールから放射能  
を含む冷却水が漏れ出る心配。地震  
などで冷却水が抜ければ、崩壊熱で  
セシウムやヨウ素などの揮発性核種  
が大量に放出されるわ。今後、周辺  
の住民はその危険と隣り合わせで暮  
らさなければならなかったのよ。

## 2050年の高速増殖炉実用化 原子力委員長、困難視

A 2010  
6/17

？  
ところで、「核燃料（プルトリウム）サイクル」の主役はあくまでも高速増殖炉で、プルサーマルはつなぎ役にすぎないのよね。

福島原発事故の前年、  
福井県庁を訪れた近藤俊



介原子力委員長は、「2060年に高速増殖炉を実用化するとしている国の原子力政策大綱の実現など誰も考えていない」と本音を吐露したわ。プルサーマルはつなぎ役にもなりえないし、この先も「核燃料サイクル」に実現性はないということなのよ。

（14頁を参照）

## 1997年12月県議会でのプルサーマルをめぐる論議

関孝治県議『地域振興策が示されなければ反対すべき』

栗田知事『正直言って地域振興を考える段階にはない』

山本文雄県議『原発を新幹線の駆け引き材料に、総理に直訴する考えはないか』

栗田知事『新幹線のために、原発問題を進めるのは問題』

当時、三重県議会は原発立地の凍結決議をし、北川知事は立地を拒否しています。他方、福井では、原発を地域振興との取引材料に使おうと、それを露骨に口にする県議がいて絶句させられたものです。ただ、この時点で栗田知事は、プルサーマル計画は議論の積み重ねが必要で急ぐ考えはない。使用済み燃料対策を優先させる。国の日程に合わせるつもりはないと慎重な姿勢を崩しませんでした。



結局、若狭の原発サイト内にある使用済み核燃料四千数百トンの大半は再処理できないまま「核のゴミ（高レベル廃棄物）」になる運命ということね。でも、関電は、県外での中間貯蔵施設を2030年ごろに操業開始すると県に約束しているわよ。

上関町の「中間貯蔵施設誘致計画」のこと



ね。だけど、再処理の行き詰まりが誰の眼にも見えてきた今、上関での「永久貯蔵」も見えてきて、世論は受入れ拒否に傾いてるわ。

周辺の田布施町議会も3月21日に反対決議し、山口県知事も「負担として非常に過大」だとしていて、同意は難しいと思うわ。

# 『プール貯蔵より乾式貯蔵の方が安全』は、ダマシの手口！



原発敷地内での乾式

貯蔵の安全性について、

福井県の原子力安全専門委は、安全と評価しているわ。

熔融事故を起こす危険

はほとんどないわ。でも、

高い放射線は出続けているのよ。乾

式容器は、プールのように放射線

を遮蔽できず、キャスクの近くでは

1時間で公衆の被ばく線量限度1ミ

リシーベルト/年を超えてしまうわ。

原子力規制委員会でも40年後には漏

洩のためキャスクを移動できなくな

ることを心配していたほどよ。



## 規制委員長の懸念「貯蔵長期化」

原子力規制委員会の更田前委員長は2020年に、むつ市の「中間貯蔵施設」について「恐れるのは、使用済み核燃料を運び出す先がない状態で、燃料容器の耐用年数（50～60年）に近づく事態」と貯蔵長期化の懸念を示した。

その懸念とは、乾式キャスクの耐用年数（設計貯蔵期間）は40～60年で、数十年後には、金属ガスケットなどのシール部やレジンなどの中性子遮へい材が劣化し、人が近づくと被ばくする事態となり、その後の移動も保管作業も困難になることだ。



プール貯蔵より、乾式

貯蔵の方が安全と信じ

ている県議も多いわよ。

中間貯蔵によりプール水喪失事故の危険が高どまり！

多くの人が誤解して

いることだけど、プー

ルで10年も冷却すれば、

冷却水喪失による使用済み核燃料の

熔融事故の危険はほとんどなくなる

わ。そのままプールに入れておけば

いいことよ。

関電は「乾式貯蔵の方が安全」と

言うけど、それはダマシの手口よ。

プール水の喪失による燃料熔融事

故を心配する人は、原発が運転を続

け、13カ月ごとに燃料が交換され、

プールにたえずホットな使用済み核

燃料が入っている状況をこそ心配す

べきなのよ。





米国の原発では、70年  
代から乾式貯蔵を進めて  
きたそうね。

## 米国の乾式容器は 長期保管専用で内陸貯蔵用

米国は、70年代にシミー・

カーター大統領が、プ  
ルトニウム増殖利用の路  
線を放棄したのよ。



高速増殖炉も再処理工場もやめ、  
軽水炉の使用済み核燃料は、当面、  
原発敷地内で保管することになった。  
ほとんどの原発は内陸にあり、潮  
風で劣化することもないから、分厚  
いコンクリート遮蔽の容器が使われ  
ているわ。

それに比べ日本の乾式容器は貯蔵・  
輸送兼用で小型軽量薄型。放射線の

遮蔽力が弱いいため、遮蔽用の建屋や  
設備があるし、遮蔽体のレジン（エ  
ポキシ樹脂）は、中性子線照射によっ  
て消耗し、50年先には「金属ガス  
ケットの健全性の問題が生ずる」  
「燃料棒の内圧により被覆管が破損  
する可能性」があるのよ。

関電の担当者も「容器の設計上、  
60年以上は置けない」と高浜町議会  
で回答しているわ。

（2024年3月14日 朝日新聞）



福井の政治家たちは、  
原発の問題で、いつも  
「地域振興」との取引を  
習わしにしてきたけど、千年先、万  
年先まで放射能ゴミの影響を受ける  
子孫たちへ、どのような言い訳をす  
るつもりかしら？

ところで関電は2013年から、  
使用済み核燃料の中間貯蔵施設の受  
け入れ要請を210の自治体に行い、  
すべて断られたそうね。

高浜原発に隣接する  
京都府宮津市は、ふる  
さとを守る条例の理念  
にそぐわぬものとして中間貯蔵施設  
の受け入れを拒否したのよ。



当時の宮津市は、深刻な財政難に  
あり、2019年度の〈将来負担比  
率〉は、タ張市に次ぐ全国ワースト  
2位だったのよ。それでも、中間  
貯蔵受け入れにともなう電源三法交  
付金などの金銭的誘惑にも惑わされ  
ず、毅然として使用済み核燃料の中  
間貯蔵を拒否したのよ。

# 西川前知事『中間貯蔵は管理、監視が中心の仕事。雇用効果はない』

西川前知事は2015

年、後援会長である川田



達男福井商工会々頭の「(敷地内)貯蔵を貯蔵ビジネスと意識転換すべし」の意見にも「**中間貯蔵は管理監視が中心の仕事。雇用効果はない**」と、それをはねつけたのよ。



杉本知事が敷地内貯蔵を認めれば、それは「若狭を核のゴミの墓場にしない」という栗田(元)知事以来の県方針の大転換で、県民の願いにもそむくことになるわね。

いまだに一時の金(地域振興)をあてにし、未来世代の危険に思いをめぐらせない政治は、時代錯誤よね。

チエルノブイリ事故

の前年の1985年の



県議会で山本順一県議(自民党)は「知事は15基もの原発を受け入れたが、住民の所得増大には結びつかなかった。」と追及。中川知事は「期待したようにはいかなかった」と脱帽したわ。



知事、誤り認める

1985年10月2日 朝日新聞(県版)

美浜町は1990年に原発は「恒久的・総合的・広域的振興には結びついていない」と報告。

福井県も1994年に「原発15

基を誘致したが、恒久的福祉の実現にはほど遠い」「一時的な財政面の恩恵より、新たな恒久的な地域活性化のあり方が求められている」と総括しているのよ。

さらに2010年にも福井県立大学経済研究所が「関電の利益は大部分が県外に流出し、原発の県経済に対する直接的なメリットは、見かけの大きさほどは大きくない」と報告しているわ。



人口減少問題は全国共通の悩みだけど、とくに原発のある町での若年層の人口減少は深刻のようね。

おい町が、町内13

団体からアンケート調

査を行なったところ、



「産業の育成や企業誘致による雇用の創出」「新規就業者の受け入れ等による産業振興」など、仕事につながる産業や雇用の創出に力を注ぐべきと考える割合が高かったそうよ。

(令和2年 おおい町人口ビジョン改訂版)

ここに興味深いデータがあるわ。  
1965年から2020年の55年間の、県内町村全体の人口のピークは1999年よ。

でも、美浜町、おい町、高浜町は、年平均20億円前後の電源三法交付金が交付され、原発関連収収が予算に占める割合も莫大であったにもかかわらず、原発を持たぬ町村より5～13年も早くから人口減少が進ん

でいるのよ。

55年間の減少率（最大人口÷最少人口）は町村平均の13%に対し、美浜町31%、おい町24%、高浜町18%と突出しているわ。お金がたくさんあるからといって、町が「豊か」になったとは言い切れないのよ。



潤沢な財政でなぜなの？

その答えはこれまでいくつも指摘されてきているけど、例えば次の新聞記事の見出し「原発交付金自立を阻害」は象徴的ね。



(1998年・朝日県版)

「原発交付金自立阻害」

豊かな町で若者流出

市民出前講座 少人数でも 講師派遣します

核のゴミと福井の未来を考えよう!

プロジェクターを使ったわかりやすいお話です

連絡先：越前市 山崎方 Tel: 090-6271-8771



参考図書:「再稼働の前に考えよう使用済み核燃料」長沢啓行講演録 ¥500

「なぜ、原発で若狭の振興は失敗したのか」白馬社 山崎隆敏 ¥935

# 再処理工場による放射能汚染の現実

私たちは若狭・福井だけが核汚染から免れればよいなどとは考えて



いないわ。青森で再処理工場が稼働することになったときの、彼の地を襲う核汚染をとて心配しているわ。

再処理工場は、原発とは比べものにならない大量の放射能を海と空に日常的に放出するのよ。英仏ではこれまで日本の使用済み核燃料を再処理していたのよ。

## 仏国の再処理工場での汚染

仏のラ・アーグ再処理工場周辺では、トリチウムが一般環境の700倍、セシウム137が約150倍と極めて高レベルで検出され、一般環

境では検出されないコバルト60などの放射性物質も検出されているわ。

保健所や開業医らが、工場の35<sup>キ</sup>圏内（人口約90万人）の25歳未満の住民を対象に白血病調査を実施。10<sup>キ</sup>以内では、国内平均で予想される発症数1・4人に対し、2・8倍の4人だったと報告されているのよ。



（毎日新聞1996年8月4日）

## 英国の再処理工場でも

英国セラフィールズ再処理工場の近くの村では、25年間に11人の子供が、

白血病、骨髄ガンで死亡しているとの医師の証言もあるのよ。

（毎日新聞1984年7月23日）

## 六ヶ所再処理工場でも

六ヶ所再処理工場でも、2006年からの試験運転で、ヨウ素129その他の核種を海と空に放出しているのよ。福井新聞は、試験転でプルトニウムなどの放射性物質が漏れたことを伝えているわ。

（福井新聞2006年4月13日）





原発は「クリーン」エネルギーと宣伝されるけど、百万Kwの原発で年に広島型原爆千発分の死の灰が生まれるそうね。

使用済み核燃料には、

半減期が二万四千年



(自然消滅までに二十四万年)の、自然界には存在しない超猛毒のプルトニウムも含まれているわ。プルトニウム8kgで長崎型原爆を一個つくれるのよ。それを日本は、約45トも保有しているのよ。



プルトニウムは1gで日本人全体の許容量になるそうね。たった1gで四百万人を肺ガンにするともいわれる超猛毒物質なのよね。

1ミクロンのプルトニウム微粒子(タバコの煙り一粒大)が肺の中に入れば、そのアルファ線によって、確実に気管支ガンや肺ガンが引き起こされるのよ。



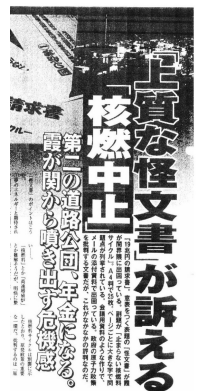
「余分なプルトニウムは持たない」という国際的な約束があるのに、なんで再処理をやめないのかしら？

21年前に、核燃中止を訴える「上質な怪文書」



が霞が関界隈に届いたこと知ってる？

経産省の数人の若手官僚が関わったものらしいけど、核燃(プルトニウムリサイクル)をやめられない理由を次のように書いているわ。



### ① 行政の無謬性へのこだわり

「今まで核燃サイクルを推進してきたことが時代遅れとなったという政策の誤りを認められない」(今更やめるといえば、使用済み燃料が持ち出せなくなり原発が止まる)

### ② 国と電力業界の原子力利権を巡る政界、官界、業界、自治体のたかりの構図

### ③ 既得権への固執

そして、政策的意義を失った19兆円(果ては50兆円)ものお金が国民の負担に転嫁されようとしている・・・。

(2004年5月 週刊朝日)

## 歴代知事は、「敷地内貯蔵」を認めませんでした！！



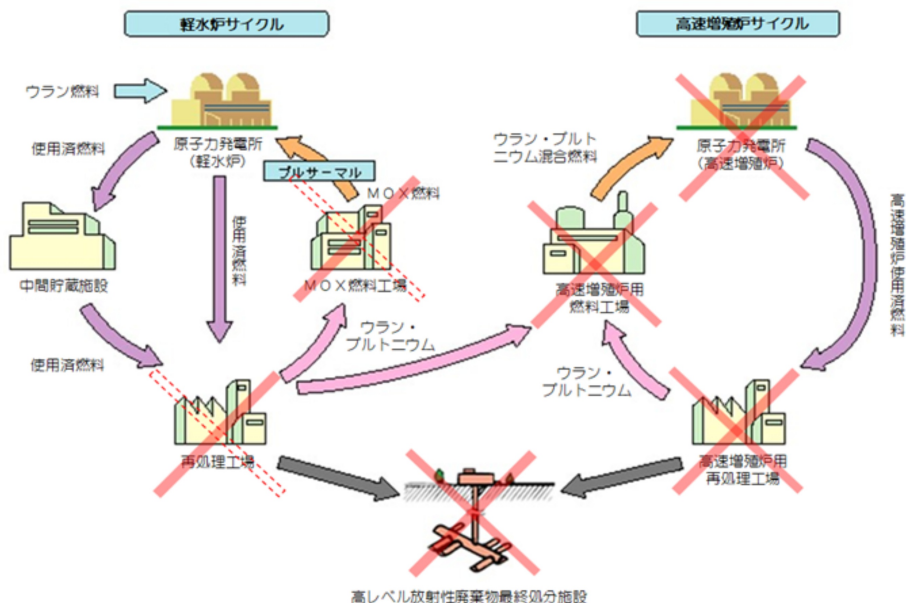
栗田（元）知事も西川（前）知事も、使用済み核燃料の敷地内の貯蔵を認めなかったわ。それは、「核燃サイクル」が破綻した現状で敷地内貯蔵を認めれば、若狭が核のゴミ捨て場になると理解されていたからよ。

敷地内乾式貯蔵の容認は、県原子力行政の大転換となり、若狭を核のゴミの墓場にしないでという県民多数の願いにもそむくことになるわ。

## 「核燃料サイクル」破綻 — 将棋なら、すでに「詰んだ」状態

「軽水炉サイクル」と「高速増殖炉サイクル」の両輪がつながらぬものを「核燃料サイクル（プルトニウムリサイクル）」とは呼べません。

核燃料サイクル概念図 （出典：資源エネルギー庁の原図に×印を加筆）





絶滅危惧種 コウノトリ

責任編集:「核のゴミと福井の未来を考える会」

監修:大阪府立大学名誉教授 長沢啓行（若狭ネット資料室長）

協力:「サヨ原福井ネット」と 浄財を寄せていただいた県内外の多くの市民のみなさん

\* このQRコードで福井県民にさらに広めましょう⇒



連絡先: 越前市不老町6-36 山崎方 Tel: 090-6271-8771